# ２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL. 5

**幼児教育研修（人権　第１回）　　受講者数９８名**

日時　令和３年６月１１日（金）　１５：００～１７：００
場所　ギャラクシティ　西新井文化ホール
講師　東京立正短期大学　現代コミュニケーション学科幼児教育専攻　准教授　　鈴木　健史氏

**【内　容】**

「子どもの人権」

～人権を守ることは教育・保育の根幹～

人権を守ることは、保育の根幹です。人格形成の基礎を培う乳幼児期の教育・保育を担う保育者は自らの人権意識・人権感覚を振り返り、向上させていくことが必要です。

子どもの人権を大切にする保育とはどういうことなのかを考え、乳幼児期の人権について学びを深めます。

講師　鈴木　健史氏

【受講者の感想】

**＊　研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか**

・性や発達には多様性があることを学んだ。そのことを意識して子どもたちのもっている学びの多様性を大切にしたい。

・気持ちを伝える言葉かけの大切さを学んだ。今後は、禁止・否定・命令をイメージさせる「～してはだめ！」等ではなく、承認・提案をイメージできる「～してはどう？」等の言葉を使うことを意識していきたい。また「私は～思ったよ（感じたよ、考えるよ）」等の言葉も意識的に取り入れていこうと思った。

・子どもの最善の利益とは、子どもから聞くことであると学んだ。園の子どもたちが自分の権利を感じられるように「～がきらい」「～したくない」という発言や態度も子どもの表現として受け止め、どう対応していくことが子どもにとって良いことなのかを深く考えていきたい。

・今までの経験や勘で何気なく保育していることはないかという講師の問いかけが印象に残った。保育者として一つ一つの言動を意識して保育していきたいと思った。また、自分の保育を振り返り、子どもの人権を大切にできているかを改めて考えていきたい。

**＊　ご意見・ご感想**

・保育者が人権を守ることで、子どもが大人になった時に相手を思いやり自分の人権を大切にできるのだろうと思った。

・子どもの育ちや遊びは結果（点）で捉えがちだが、尊重されるべきなのは、その時の子どもの主体性や過程（線）であり、経験そのものに価値があることなのだと分かった。

# ２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL. １９

幼児教育研修（人権　第２回）　　受講者数６７名

日時　令和３年７月９日（金）　１５：００～１７：００

場所　梅田地域学習センター

講師　東京立正短期大学　現代コミュニケーション学科幼児教育専攻　准教授　鈴木　健史氏

**【内　容】　「子どもの人権」**

**～人権を守ることは教育・保育の根幹～**

人権を守ることは、保育の根幹です。人格形成の基礎を培う乳幼児期の教育・保育を担う保育者は自らの人権意識・人権感覚を振り返り、向上させていくことが必要です。

子どもの人権を大切にする保育とはどういうことなのかを考え、乳幼児期の人権について学びを深めます。

講師　鈴木　健史氏

【受講者の感想】

**＊　研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか**

・子どもの権利条約から、すべての子どもには“生きる権利”“育つ権利”“守られる権利”“参加する権利”があり、私たち保育者は、常に子どもの最善の利益を考えなければならないことを学んだ。「～したい」「～したくない」「いや」という子どもの意見や主張を理解して寄り添い、見守る姿勢を忘れてはならないと感じた。

・大人がゴールまでの道筋をつくるのではなく、子どもが自分で選択してゴールを決める“主体性の尊重”の話はとても印象的であった。結果ではなくプロセス（過程）が大切であることを再確認できた。

・寄り道・回り道・やり直しに価値があるということを学んだ。子ども同士のトラブルが起きるとすぐ解決しようと思ってしまうが、危険がない限り、どうしてそうなったのかなどトラブルの背景を見極める努力や双方の思いに共感することを大切にして関わっていきたい。

・子どもは個性をもって生まれてくるということを知った。一人一人の子どもに対して配慮した内容や結果を記録して、子どもの長所や多様性に気づける保育をしていきたいと思った。

・子どもを丁寧に見守る環境をつくるためには、職員間の連携を良くして働きやすい職場環境をつくることが大切ということを学んだ。相互尊重のコミュニケーションをしっかりとっていくよう心がけたい。

**＊　ご意見・ご感想**

・子どもの人権について日ごろから意識しているつもりだったが、認識しきれていない部分もあった。自らの保育を顧みる機会となった。

・子どもにとってどうなのかということを基本に考え、保育していく必要を痛感した

# ２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL.２１・５０

「乳幼児の人権」研修

『子どもの権利の尊重について～保育の根幹を学ぶ～』

日時・場所　令和３年９月　３日（金）14：00～16：00　　受講者数　41 名

オンライン研修

令和３年 11 月 29 日（月）～令和３年 12 月 17 日（金）受講者数 225 名

オンデマンド研修

講　　師　帝京科学大学　教育人間科学部　幼児教育学科

学科長・教授　　林　友子　氏

【内　容】　「子どもの権利の尊重」について　～保育の根幹を学ぶ　～

教育、保育の根幹である乳幼児の人権については、『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『保育所保育指針』の中にも明記されている。

「私は大丈夫。子どもの人権については、いつも意識して保育にあたっている。」と思っていても日常の保育の中で、食事中眠くなってしまった子に、あと一口と食べさせたり、早くごめんなさいしようねと声をかけたり、眠くない子を無理に寝かそうとしたりする場面など、日常の保育での子どもとのかかわり方を振り返りながら、事例を通して翌日からすぐ保育で活かせる子どもの人権尊重について学ぶ。

【受講者の感想】

＊ 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

・一人ひとりの性格や家庭環境の違いに配慮し、保育していきたい。
・「○○してはいけないよ」と否定的な言動を減らしていきたい。
・「走らないで」と発言する前に一度考え、「歩こうね」と肯定的な言葉に変換する。
・身支度、食事の補助など、ゆったりと少し待つ気持ちで関わる。
・自分自身が子どもにとって安心できる存在でいる。
・子ども一人ひとりを見つめなおし、よりよい関係を築いていく。
・子どもと同じ目線に立って、保育や環境を見直す。
・子どもの良いところを見つけたり、褒めたり励ましたり、子どもの立場に立って考えていきたい。
・自分でも無意識に否定的な言動をしている場合もあるので、自分の保育感を客観的に見直し、子どもが精神的苦痛を味わうことの無いようにする。
・子どもとの信頼関係はもちろんのこと、保育者同士の関係を密にしていくことで、お互いにアドバイスをしあったりできる環境を作る。
・自分の気持ちに余裕をもって接していく
・一日一つ、その子の良さを見つけて褒めるようにしたい。
・目の前の姿を受け止めるだけでなく、内面にあるもの、心の世界を推測していきたい。
・子どもが素直に気持ちを出せる保育者でいたい。
・外国籍の子どもの母国語であいさつしたり、その国の文化を紹介したりするなど尊重したい。

# ２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL.３４

幼児教育研修（人権　第３回）　　受講者数６３名

日時　令和３年１０月２７日（水）　１５：００～１７：００

場所　竹ノ塚地域学習センター

講師　東京立正短期大学　現代コミュニケーション学科幼児教育専攻　准教授　　鈴木　健史氏

**【内　容】　「子どもの人権」**

**～人権を守ることは教育・保育の根幹～**

人権を守ることは、保育の根幹である。人格形成の基礎を培う乳幼児期の教育・保育を担う保育者は自らの人権意識・人権感覚を振り返り、向上させていくことが必要だ。

子どもの人権を大切にする保育とはどういうことなのかを考え、乳幼児期の人権について学びを深める。

講師　鈴木　健史氏

【受講者の感想】

**＊　研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか**

・子どもは個性をもった一人の人間であり、自由な思いや願い、主張や意見を述べる権利がある。保育者が子どもを理解し、人権を大切にした適切な関わりをすることで、子どもは自ら学んだり、気付いたり意味を見出したりする力が発揮されることを学んだ。

・主体性というのは何かをしている姿だけが主体性ではなく、夢中になって遊んでいる姿も、じっと眺めて座っていることも、「したくない」「やだ」と言うことも主体性であるということが分かった。

・子どもの「今は遊びたくない」という思いも権利ということ、また事例から、取り組みには参加しないが他児の様子を見ることが子どもの多様な学びになっているということが分かった。

・困った行動があった時はその行動を見るのではなく、その行動の背景にどんなことがあるのか考え、その要因を取り除くよう工夫していく。子どものことを深く理解し、見守り、決めつけや思い込みをしないよう意識していきたい。

・問題行動が目立つ子は「遺伝」「子どもの状態（ストレス、体調等）」「環境」によって様々であるため、（お店で大泣きした）その行動をとったから買ってもらった（評価）をするとそれを繰り返すようになるという話を聞いて、適切な対応ができるようにしていきたいと思った。その場の状態を見極めながら、なるべく保育者としての軸がぶれないように関わっていきたい。

**＊　ご意見・ご感想**

・現場や家庭における事例を挙げて頂きながらのお話だったので理解しやすかった。またワークも取り組みやすいもので良かった（多数あり）。

・職員全員が受けられると、保育の質の向上に繋がるので、継続的に繰り返し受講できる機会があると良いと思った。